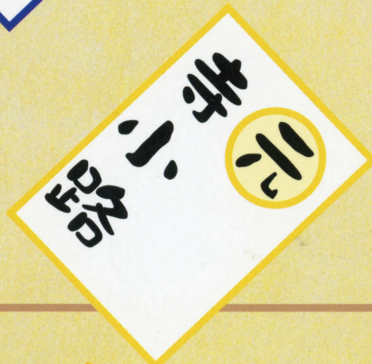


駅東口・仙石線沿線

がわりかします



X 橋

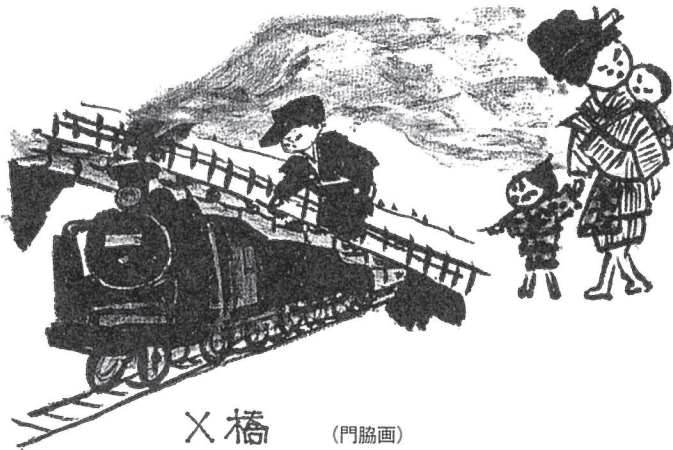
大正十年の開通。正式名称は宮城野橋、鋼拱橋、長三十・八メートル、幅七・三メートル、名掛丁、二十人町と元寺小路、鉄砲町と並行する二つのまちを一本の橋で結んだ形が、X型に似ているところからX橋と呼ばれるようになった。当時の橋梁は今より低かったという。「橋の上から駅を出入りする列車の様子や、黒煙を吐き汽笛を鳴らして通過する列車を、大人も子供も胸を躍らせて喜んだものだ。見物人が大勢出て一寸した遊園地でしたよ。特に子供たちが歓声を上げて黒煙の中に飛び込み、煙の晴れ間から現す汽車に、背負われた赤ん坊まで泣き止むほど楽しい遊園地の様相を呈した」と。

また「当時は、川内から宮城野原練兵場に通う隊伍堂々たる行進を入垣をつくってその通過を待ったものだ。偉い軍隊も名掛丁踏切だけは、さすがに通れず宮城野原到着がバラバラとなり演習に差し支える始末、されば軍隊の要請によって鋼拱橋が造られ、両側に木製の手摺りが取り付けられていた」と古老は語る。

「名掛丁東名会きのう今日あした」より

X橋は二回直している。一回目の理由はわからな
いが、橋が低かったのでよく煙がきた。二回目は列
車が電化されたときに高くなった。

(菅原松代さんの話)



X 橋

(門脇画)

路地

花京院や名掛丁の間には多くの路地が通じ長屋が密集し、共同井戸、共同便所もあって、環境は悪かったが便利であった。一日中遊び回って喉が渴いてツルベや手押しポンプで汲み上げて飲んだ、あの冷たい水の美味しさは格別だった。柿やブドウなどの果物が成る木がたくさんあって、子供の胃袋を十分に満たしてくれた。X橋では竹スキー、竹そり、凧揚げ、そしてスケートなどが懐かしい。

(門脇誠一記)



「通してけさえーん」の聲が聞こえてきそうだ



主のなくなった長屋



空き地がお花畑に変身